

令和6年  
2024年

11月5日  
火曜日

第11588号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



グループホールへが記念イベントを開催……P8~9

- ▶ 9月の牛肉輸出は前年比14・8%増、最大輸出先は台湾……P2
- ▶ [都内輸入食肉在庫・9月]……P2
- ▶ 農水省・厚労省[秋の叙勲]柿本氏、加藤氏ら受章……P3
- ▶ 農水省[秋の褒章]黄綬褒章に蔵尾氏、宮氏……P3
- ▶ ジビエ需要拡大に向け全国ジビエフェアを開催、2月28日まで—農水省……P3
- ▶ 日本ハムの第2四半期決算、売上高は6839億円で前年同期比5%増……P4
- ▶ 第2回フラッグシップ輸出産地募集—農水省…P4
- ▶ 加工食品事業は増収増益—伊藤ハム米久HDの2025年3月期第2四半期決算……P5
- ▶ ブータン畜産公社が来日、和歌山県で紀州うめどりの関係者らと知見交換……P5
- ▶ [加工品仕向肉量・9月]……P6
- ▶ ニチレイフーズが来年2月1日から価格改定……P6
- ▶ [11月の相場見通し]……P7
- ▶ 4例目の発生を受け、飼養衛生管理の徹底を呼びかけ—小里農相……P7
- ▶ とくしま三ツ星Bシルバースターブランド確立協が地銀FSに出展……P8
- ▶ グループホールへ、伊藤ハム米久HDとの取引関係10周年—記念イベント……P8~9
- ▶ 【東京食肉卸売市場】……P9
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】……P9
- ▶ [大阪・東京枝肉相場、全国と畜頭数] 1日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 1日…P11

## 注目のヘッドライン

### 9月の牛肉輸出は前年比 14・8%増、最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると9月の国産牛肉輸出量は921t(前年同月14・8%増)と、前年同月を上回り、前月比でも20・4%の増加となった。

…詳細はP2

### [都内輸入食肉在庫・9月] 牛肉在庫量は前年同月比3・2%増

…詳細はP2



Nipponham Group

たんぱく質を、もっと自由に。

食肉施設の設計・施工・コンサルタント

— 食肉業界をリードする —



〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5

☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

## 9月の牛肉輸出は前年比14・8%増、最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると9月の国産牛肉輸出量は921t(前年同月14・8%増)と、前年同月を上回り、前月比でも20・4%の増加となった。

輸出先国は合計36カ国・地域で、国別にみると台湾が最も多く180t。次いで、米国、香港、タイ、カンボジア、ベトナム、シンガポール、マレーシアと続く。表記

以外のその他の国は、オランダ、英国、イタリア、ドイツ、アラブ首長国連邦など。

9月分輸出額は55億6826万円(3・2%増)となり、キロ当たり輸出単価は6045円。輸出内訳は冷蔵379t(3・1%減)、冷凍546t(31・8%増)。金額ベースは冷蔵が前年比6・1%減、冷凍が12・3%増。

2024年9月の牛肉輸出状況

単位:キロ、円、%

	香港	米国	カナダ	カンボジア	マカオ	シンガポール	タイ	台湾	その他国	合計
2023年累計	1,520,136	1,142,401	1,226,852	2,359,485	142,157	544,264	474,497	1,691,904	1,684,614	8,420,732
前年比	111.3%	106.5%	107.1%	115.0%	155.5%	91.5%	82.2%	135.8%	110.6%	113.0%
2023年9月	162,475	97,230	105,280	221,866	6,225	40,110	34,591	180,354	155,930	802,238
10月	162,506	65,195	72,791	244,251	18,661	50,939	32,041	163,936	163,461	836,708
11月	176,753	58,017	64,832	231,750	3,088	44,797	41,438	180,795	163,786	842,831
12月	144,900	143,194	149,373	249,432	10,823	60,961	62,235	216,277	164,380	909,365
2024年1月	93,924	129,025	135,169	177,502	20,912	36,552	53,969	108,089	111,321	602,787
2月	106,221	195,190	204,080	279,478	6,407	40,718	20,912	114,096	126,697	694,529
3月	109,950	105,922	115,113	211,225	8,851	43,304	42,641	180,855	174,134	771,152
4月	119,742	102,543	108,144	203,350	15,243	39,566	63,942	210,433	126,716	778,992
5月	95,420	90,606	98,169	123,647	15,103	41,019	26,046	137,164	114,502	552,901
6月	101,840	104,383	111,433	174,847	15,164	43,356	64,800	184,507	187,379	771,893
7月	126,184	84,567	94,339	147,451	10,297	45,565	44,538	186,096	186,915	747,853
8月	96,559	114,269	119,630	178,986	21,576	41,357	84,125	201,243	140,972	764,818
9月	148,383	159,276	5,669	82,831	14,282	41,270	100,588	180,022	188,821	921,142
前年同月比	91.3%	163.8%	5.4%	37.3%	229.4%	102.9%	290.8%	99.8%	121.1%	114.8%
kg単価(円)	5,489	5,348	6,338	7,606	6,633	6,254	5,341	5,226	7,442	6,045
2024年累計	998,223	1,085,781	991,746	1,579,317	127,835	372,707	501,561	1,502,505	1,357,457	6,606,067
前年同期比	348.2%	570.7%	485.6%	406.8%	479.0%	425.0%	784.8%	479.6%	113.8%	113.3%

## 【都内輸入食肉在庫・9月】牛肉在庫量は前年同月比3・2%増

東京冷蔵倉庫協会が公表した9月の都内食肉在庫によると、牛肉は入庫が1万6120t、出庫が1万5850t、在庫が5万9533tとなった。前年同月比では3・2%増となり、前月を上回った。

豚肉は入庫が4万98t、出庫が3万9108tで在庫が10万7471tとなった。前年同月比では4・5%減となり、前月を上回った。

一方、鶏肉は入庫が1万6271t、出庫が1万6255t、在庫が5万3718tとなった。前年同月比では8・8%増となり、前月を上回っている。

シーズンドポークなどを含むその他畜産・畜産加工品は、入庫が6289t、出庫が4820tで在庫が1万5607tとなった。前年同月比では23・1%減となり、前月を下回った。

東京都の輸入食肉月末在庫(保税在庫)

単位:トン、%

	牛肉	豚肉	鶏肉	羊肉	馬肉	その他畜産物
令和5年9月	57,669	112,510	49,379	1,346	927	20,308
10月	56,315	106,003	49,422	1,218	937	19,812
11月	51,511	100,265	44,809	1,086	862	17,923
12月	47,362	91,657	43,716	931	810	16,593
令和6年1月	48,768	88,843	47,355	1,164	958	15,823
2月	48,422	83,217	50,193	1,114	1,028	15,485
3月	50,714	84,536	49,765	1,387	936	14,260
4月	50,762	86,352	46,417	1,470	803	12,945
5月	52,249	97,438	50,814	1,788	977	13,315
6月	54,379	101,558	51,249	2,142	988	13,710
7月	58,608	103,508	47,983	2,006	902	14,175
8月	59,263	106,481	58,702	1,851	922	14,138
令和6年9月入庫	16,120	40,098	16,271	645	351	6,289
出庫	15,850	39,108	16,255	757	298	4,820
在庫	59,533	107,471	53,718	1,739	975	15,607
前年同月比	103.2%	95.5%	108.8%	129.2%	105.2%	76.9%

## 農水省・厚労省【秋の叙勲】柿本氏、加藤氏ら受章

農水省と厚労省は令和6年秋の叙勲を発表した。農水省では、旭日章55人、瑞宝章22人の計77人、厚労省では、124人、245人の計369人が受章した。



そのうち、本紙関係者は次のとおり。

農水省【旭日章】[旭日小綬章]小田英三(一般社日本外食品流通協会会長、食料品流通業振興功労、73歳)▽細田勝二(元全国農業協同組合連合会富山県本部運営委員会会長、農業振興功労、77歳)[旭日双光章]甲斐正章(元(株)藤野屋会長・元竹田

商工会議所会頭、畜産業振興功労・産業振興功労、80歳)▷柿本憲治(日本食品(株)社長、畜産物加工業振興功労、77歳=左写真)【瑞宝章】[瑞宝重光章]皆川芳嗣(元農林水産事務次官、農林水産行政事務功労、70歳)



厚労省【旭日章】[旭日単光章]加藤和宣(東京都食鳥肉販売業生活衛生同業組合副理事長、生活衛生功労、75歳=右写真)

## 農水省【秋の褒章】黄綬褒章に蔵尾氏、宮氏

農水省は2日、令和6年秋の褒章受章者を発表した。農水省の受章者は、黄綬褒章23人、藍綬褒章2人の計25人。本紙関係の受章者、功績概要は次のとおり。

[黄綬褒章]蔵尾忠((有)蔵尾ポーク取締役会長、業務精励<畜産業>、65歳=写真)▷宮辰夫(宮畜産(株)代表取締役、業務精励<食肉仲卸業>、72歳)▷弓

削昭男(南国興産(株)社長、業務精励<飼料製造業>)[藍綬褒章]高岡慎一郎(元一般社日本フードサービス協会会長、外食産業振興功績、65歳)



## ジビエ需要拡大に向け全国ジビエフェアを開催、2月28日まで—農水省

農水省では、ジビエの普及、需要拡大に向け、全国ジビエフェアを開催している。

農作物の鳥獣被害防止対策などのための鳥獣捕獲が増加する中、捕獲した野生鳥獣を地域資源と捉え、ジビエとして有効活用する取り組みが全国で拡大している。このような中、農林水産省は国産ジビエの認知向上、普及、需要拡大に取り組んでいる。

「全国ジビエフェア」では、日本全国のジビエを取り扱う事業者に参加を募り、特設サイトにおいて、フェア期間中にジビエメニューを提供する飲食店、宿泊施設、ジビエ等商品(精肉、加工品、ペットフード、皮革

製品など)を販売する小売店、ECサイトの情報を取りまとめて紹介する。また、特設サイト内に特集ページを設け、さまざまなジビエの楽しみ方を提案する。

さらに、各地域のご当地ジビエフェア情報やイベント情報なども多数紹介し、どこに行けばどんなジビエが食べられるのか、どこで買えるのかなどの情報提供を行うことで、ジビエを食べたい! 買いたい! という機運を盛り上げ、ジビエの消費拡大を図る。(事業実施主体=(株)ぐるなび)

開催期間=令和7年2月28日まで、特設サイト=<https://www.gibier-fair.jp/>

## 日本ハムの第2四半期決算、売上高は6839億円で前年同期比5%増

日本ハムが1日に発表した2025年3月期第2四半期連結業績によると、売上高は、食肉事業における販売数量拡大や国産食肉を主とした単価上昇に加え、海外事業において豪州の牛肉販売が伸長したことなどにより、6838億6400万円(前年同期比4・9%増)となった。事業利益は、加工事業の商品ミックス改善ならびに生産最適化の進行や、海外事業において豪州の牛肉生産数量の増加により利益確保が進んだことなどから、270億9200万円(8・5%増)。税引前中間利益は為替変動の影響などにより288億7200万円(8・6%減)、親会社の所有者に帰属する中間利益は178億6400万円(10・6%減)となった。セグメント別の概況は次のとおり。

【加工事業本部】売上高は、主力商品である「シャウエッセン」およびエキス・1次加工品・乳製品の販売が好調に推移したものの、デリ商品の販売数量が減少したことや、構造改革の一環として低収益商品の見直しなど戦略的な商品統廃合を図ったことで、2086億3000万円(1・1%減)となった。一方、事業利益は、価格改定効果に加えてハム・ソーセージの商品ミックス改善や生産の最適化が進行したことで収益性が向上し、47億1700万円(62・3%増)となった。

【食肉事業本部】売上高は、量販店向け国産豚肉ならびに外食向けの国産各畜種における単価上昇および販売数量の増加などにより、4092億5600万円(6・0%増)となった。事業利益は、国産鶏肉の相場安と生産部門における飼料価格などのコスト上昇に加え、販売部門において輸入食肉の相場高に対する価格転嫁が遅れたことなどが影響し、138億7800万円(18・5%減)となった。

【海外事業本部】売上高は、豪州の牛肉事業における販売数量の拡大に加え、米州の加工品販売が順調に推移したことなどから、1616億500万円(7・6%増)となった。事業利益は、豪州の牛肉事業において生体価格が上昇したものの、生産数量の増加により利益確保を進めたことなどで、42億1200万円(前年同期は2億500万円の事業利益)となった。

【ボールパーク事業】「北海道ボールパークFビレッジ」開業期から継続的に実施していた認知度拡大・ブランド力向上施策により広告収入などが伸長したことや、チーム成績が好調であったことから来場者数が堅調に推移し、チケット・飲食収入が増加したことで、売上高は196億700万円(6・2%増)、事業利益は70億3300万円(8・7%増)となった。

## 第2回フラッグシップ輸出産地の募集を開始—農水省

農水省は、今後、一層の輸出拡大を図るため、輸出先国・地域のニーズや規制に対応した農林水産物を求められる量で継続的に輸出する産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定している。今回募集対象品目として新たに林産物、水産物を加え、第2回募集を開始する。

今後、一層の輸出拡大を図っていくためには、輸出先国・地域のニーズや規制に対応した輸出を継続している産地を“見える化”し、その商流の拡大を図るとともに、これから輸出に取り組もうとする産地に対する横展開および輸出産地の成長段階に応じたキメ細

かな支援を講じていくことが求められている。こうした課題の下、海外の規制やニーズに対応した農林水産物を求められる量で継続的に輸出する産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定することとし、第1回募集では農畜産物を対象に42産地を認定(令和6年7月)した。第2回目の募集については、農畜産物のほか、新たに林産物および水産物を募集対象として追加し、募集を開始する。

募集期間＝11月29日(金曜日)まで、詳細＝[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/flagship\\_yusyutsu.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/flagship_yusyutsu.html)

## 加工食品事業は価格改定効果などで増収増益—伊藤ハム米久HDの 2025年3月期第2四半期決算

伊藤ハム米久ホールディングスが1日に発表した、2025年3月期第2四半期連結業績によると、売上高は4909億1400万円(前年同期比4・4%増)、営業利益88億600万円(16・8%減)、経常利益90億3700万円(26・5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益62億6400万円(17・5%減)で増収減益となった。

セグメント別の概要は次のとおり。

[加工食品事業]ハム・ソーセージは、テレビCMの投入や消費者キャンペーンの実施により、家庭用主力商品の拡販などに努めたことから、売上高は増加した。調理加工食品は、消費者ニーズの多様化に対応し、ピザ類、ハンバーグ・ミートボール類などの拡販に努めたことから、売上高は増加した。加工食品事業全体では、価格改定による効果などが原材料費、光熱費および物流単価の上昇の影響などをカバーしたこ

とから、売上高1974億3300万円(3・4%増)、経常利益39億2900万円(13・1%増)で増収増益となった。

[食肉事業]国内事業は、売上高は増加したが、消費マインドの低下による高価格帯の国産牛肉、輸入牛肉の販売数量減少、飼料価格の高止まりによる国産鶏肉の生産事業の利益減少などの影響を受け、減益となった。海外事業は、アンズコフーズ社において売上高は増加したものの、人件費の増加および光熱費の上昇や中国向け輸出の不振の影響などを受けた結果、減益となった。食肉事業全体では、販売単価上昇により売上高は2934億7300万円(5・1%増)と増加したが、国内、海外ともに厳しい事業環境が続いており、経常利益は58億4900万円(38・4%減)と減少し、増収減益となった。

## ブータン畜産公社が来日、和歌山県で紀州うめどりの関係者らと知見交換

ヒマラヤ山脈の南麓に位置する国ブータンは、食糧安全保障の観点から国内産肉の増産を目指している。このほど、ブータン畜産公社からの打診を受け、紀州うめどり・うめたまご協議会への視察が行われた。人口80万人弱と、和歌山県と同程度のブータンでは国内市場が小さく、豚肉や鶏肉は隣国インドからの輸入が主となる。国内産肉の増産を推進するに当たり、ブータン畜産公社から和歌山県と紀州うめどり・うめたまご協議会に対し、日本の養鶏手法と実例を学びたいとの要望があり、今回の視察が実現した。

10月17日、和歌山県日高郡みなべ町の紀州うめどり協議会(株紀州ほそ川内)にブータン畜産公社の養鶏専門家8人と日本人専門家4人の計12人が訪れ、和歌山県畜産課担当者2人のほか、紀州うめどり協議会担当者3人とともに知見を交換。

ブータン畜産公社担当者は「現在はどうすれば国産の鶏肉や豚肉がもっとブータン国内で受け入れられるか試行錯誤しているところ。この機会にぜひ日本の生産改善手法を学び、より付加価値の高い生産を

行いたい」と述べた。

和歌山県との長年の共同研究の末誕生した「紀州うめどり」とその餌となる梅由来の機能性飼料「紀州梅そだち」について、それぞれの製品の特長や養鶏手法・農場設備についての説明の後、ブータン担当者からは「どのようにして官民連携をしているのか、複数の企業が協力しているのか」などの質問があった。

決して大規模養鶏産地とはいえない和歌山県において、ブランド鶏「紀州うめどり」を生み出すまでの協議会員の思いや苦労、地域の農業・養鶏業との連携方法や公的支援の活用法など、幅広いテーマについての議論が行われた。紀州うめどりは食肉産業展で開催された「地鶏・銘柄鶏食味コンテスト2008」で最優秀賞を受賞したことから脚光を浴び、広く人気を獲得したが、2019年12月、生産農家・処理工場運営会社の経営破綻により、一度生産停止になった。この幻のブランド鶏を復活させるべく、生産・販売メンバーが新たに取り組んだ結果、約4年の歳月を経て「紀州うめどり」を復活させた。

## 【加工品仕向肉量・9月】国産、輸入の合計は3万5392tで6・9%増

日本ハム・ソーセージ工業協同組合がまとめた9月の加工品仕向肉量によると、国産と輸入を合わせた合計数量は3万5392t(前年同月比6・9%増)と前年同月を上回った。このうち国内物が9313t(5・7%増)と増加し、輸入物も2万6080t(7・4%増)と増加している。24年度累計は30万8336t(2・0%増)。このうち国内物は8万3897t(4・2%増)、輸入物は22万4440t(4・2%増)で推移している。

9月を畜種別にみると、豚肉は国内物が5550t(7・1%増)、輸入物が2万3909t(9・1%増)、合計2万9459t(8・8%増)で前年を上回った。また、鶏肉は国内物が3613t(3・1%増)と増加し、輸入物は966t(19・9%減)となり、合計では4579t(2・8%減)と前年を下回った。シーズンドポークなどを含む豚肉調製品は9199t(5・3%減)となっている。

2024年9月分の食肉加工品仕向肉量

(単位:トン、%)

区分		仕向肉量	対前年同月比	2024年累計	対前年同期比
豚肉	国内物	5,550.0	107.1	49,665.6	104.4
	輸入物	23,908.6	109.1	206,745.6	102.4
	合計	29,458.6	108.8	256,411.2	102.8
成牛肉	国内物	146.6	118.8	1,068.9	106.0
	輸入物	1,175.7	102.5	9,329.7	94.0
	合計	1,322.3	104.1	10,398.6	95.1
子牛肉	国内物	0.1	0.0	0.1	0.0
	輸入物	0.7	100.0	7.2	101.4
	合計	0.8	114.3	7.3	102.8
馬肉	国内物	3.0	100.0	27.5	30.6
	輸入物	5.2	64.2	47.8	58.1
	合計	8.2	73.9	75.3	43.7
綿羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	22.9	107.5	195.0	110.2
	合計	22.9	107.5	195.0	110.2
山羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.3	150.0	2.8	112.0
	合計	0.3	150.0	2.8	112.0
鶏肉	国内物	3,612.9	103.1	33,134.6	104.0
	輸入物	966.4	80.1	8,111.6	83.4
	合計	4,579.3	97.2	41,246.2	99.2
合計	国内物	9,312.6	105.7	83,896.7	104.2
	輸入物	26,079.8	107.4	224,439.7	101.2
	合計	35,392.4	106.9	308,336.4	102.0
うさぎ肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0
魚肉	国内物	1.6	106.7	13.2	95.0
	輸入物	13.1	89.7	104.5	96.0
	合計	14.7	91.3	117.7	95.8
【参考】					
豚肉調製品		9,198.9	94.7	83,119.5	95.1
うちシーズンドポーク		9,192.6	94.7	83,040.3	95.1

注) 仕向肉量は食肉加工工場より報告された数量である。

資料: 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」  
(公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

## ニチレイフーズが来年2月1日から価格改定、業務用畜肉加工品など

ニチレイフーズは10月31日、2025年2月1日納品分から家庭用商品および業務用商品の出荷価格の改定を行うことを発表した。同社は「世界的な食糧需要の高まりや為替変動の影響により、原材料価格の上昇が続く中、全社挙げての効率化、合理化、原材料の見直しなどできる限りのコスト削減に取り組み、商品の安定供給とともに品質・価格の維持に努めたが、自助努力だけではコスト増を吸収することが困難な状

況となった。現在の商品品質を維持し、安定的に供給するため、出荷価格の改定を行う」としている。

対象商品▷家庭用の米飯商品すべて(一部の弁当向け商品は、規格変更に伴う「実質的な価格改定」を行う)。業務用で米飯商品全て・畜肉加工品の一部。  
▷改定内容 使用原材料等の商品設計などにより改定幅は異なる。家庭用で約10~約30%。業務用で約5~約30%。

## 【11月の相場見通し】③国産豚部分肉、輸入豚肉、輸入内臓肉

### 【国産豚部分肉】荷動きは徐々に良化 スソ物中心の動き継続

【関東】10月下旬を迎えても夏日を記録するなど、異例の残暑が継続しているが、量販店の売り場でも鍋物提案が本格化してきている。11月は鍋物需要に加え、秋の行楽需要によるバーベキュー商材の提案なども行われており、バラやカタロースといったアイテムの荷動き良化が期待される。また、下旬は年末に向けてロイン系などにも多少引き合いが出てくるか。冷凍物は引き続きウデやモモなど、スソ物中心の荷動きが継続しそう。また、冷蔵物同様、バラやカタロースなどのスライス系アイテムの荷動きも良化していくか。一方、年末のイベントシーズンに向けて、スペアリブなどの引き合いも強まりそう。

【関西】猛暑が続いていたが、急速に秋模様となり、低調であった出荷頭数も徐々に落ち着きを見せてきたことで枝肉相場も落ち着いてきた。そのため、量販店も特売などの仕掛けがしやすくなっていることから、全体的に相場は9月よりも下がっているが引き合いは良化。ヒレに荷余り感はあるが、バラは引き続き高い。ウデ、モモもしっかりした展開。年末に向けての相場の動きは、ここにきて為替が1ドル150円台と円安に大きく振れており、量販店の国産シフトが強まってきていることから12月が近づけば一段高の展開か。

### 【輸入豚肉】C、F共にベリー堅調 鍋物需要本格化に期待

輸入チルドポークは一部で通関遅れの影響があり、遅れていた通関玉がまとめて入るケースなどもみ

られるものの、一部では在庫が逼迫<sup>ひっばく</sup>しているアイテムもみられる。一方、需要は全体的に堅調。11月は国内の出荷頭数も増えてくると予想されるが、ベリーやピクニックなどを中心に安定した需要が続きそう。輸入フローズンポークについては、再び為替が円安に振れていることもあり、在庫水準が高い状態が続いている中では、積極的に買いを進めにくい環境が続いている。11月は本格的に鍋物需要が期待される中、チルドポークからの代替需要もあり、ピクニックやベリーなどは引き続き強い引き合いがありそう。

### 【輸入内臓肉】スカート類高止まり 円安で在庫整理進まず

1ドル150円台に入り、現地需要は盛り上がっているとはいえないが、「当初、思っていたよりも下がらない」状況。これにより、逆ザヤとなっても在庫整理は必須と考えていた企業も「いったん様子を見てストックに回す」という形で方針転換するところも多い。9月末から10月にかけてみられた、11月の入船分を見据えたタンやアウトサイドスカートの在庫整理の動きは急速に鎮静化した。ただ、「高い玉は極力、抱えたくない」というメーカーの意識は根強く、低調な動きは続く。特に北米産は単価が高いアウト、ハンテンなどは売りにくい。年末にかけてももちあいから強含みで推移か。白物は相場こそ大きく動いてないが気温低下とともに引き合いは着実に強まっており、ラージは強もちあい。皮付きタンは11月に下がることを見越して玉を減らしていたメーカーも多く、豪州産などは在庫確保の引き合いが出てきた。

## 4例目の発生を受け、飼養衛生管理の徹底を呼びかけ—小里農相

今シーズンのわが国の高病原性鳥インフルエンザの発生事例に関しては、31日に確認された鳥根県太田市での発生を含め、現在4例目となっている。また、同県での発生は14年ぶりの発生確認となった。

小里泰弘農水大臣は1日の閣議後会見で、国内での高病原性鳥インフルエンザの発生について「今シー

ズンは早い時期からの発生が確認されており、今後どこで発生してもおかしくない状況である。発生要因を専門家と検証していく。まずは、ウイルスを農場に持ち込まないことが重要。関係者においては、飼養衛生管理の徹底をお願いしたい」と述べた。

## とくしま三ツ星Bシルバースターブランド確立協が地銀F Sに出展

とくしま三ツ星ビーフシルバースターブランド確立協議会(長谷川好昭会長)は10月29～30日、東京ビッグサイトで開催された第19回地方銀行フードセレクション2024にブースを出展。サプライヤーとして長谷川会長が代表を務める(株)フジミツハセガワも参加し、試食提供を交えながら徳島県が認定する「とくしま三ツ星ビーフシルバースター」のPRを行った。

同セレクションは全国の地方銀行52行が主催し取引先が出展。各地域の食品事業者を集めた商品展示会として開催されており、地方銀行の推薦の下、「長年地域で愛される老舗」から「斬新な発想で新商品を生み出した若手事業者」までが参加し約1千社が出展している。個別商談も行われ、食品や食品加工、量販店、百貨店、外食企業などのバイヤーが数多く訪れた。

とくしま三ツ星ビーフシルバースターブランド確立協議会はブースでパンフレットの配布や“シルバース



ター”の認証を受けている「阿波黒牛」の試食を実施。シルバースターは畜産GAP認証を認定要件にしており、徳島県産牛肉であること、出荷月齢(25カ月齢以上)、歩留まり等級(A3またはB3等級以上)、脂肪交雑(BMSNo.3以上)の基準を設定。審査を経て認定を受けた枝肉には1頭ごとに認定書を作成し、決裁後は県知事印を押印することになっている。

## グループホールへ、伊藤ハム米久HDとの取引関係10周年—記念イベント

スペイン最大の食肉グループの一つで、80年を超える豚肉事業の実績を持つグループホールへ社は10月29日、東京都渋谷区のフラガンテウーモ恵比寿で、伊藤ハム米久ホールディングスとの取引が今年10周年を迎えたことと、同社ブランド「アルティシモ・リバサム」のこれまでの発展を記念して、「アルティシモ・パーティー」を開催した。来日していたセルヒオ・サンペル・リバスCEO(写真)、カルミナ・サンペル・リバス経営企画担当役員、伊藤ハム米久HDの関係者らを含むおよそ50人が出席。冒頭、カルミナ氏は「10年続いた商売だが、今後30年先でも皆さんとはビッグファミリー、ビッグチームとして共に努力していきたい」とあいさつした。

さらに、日本向け販売窓口を務めるリバサムジャパンの小野孝博代表がグループホールへの概要を紹介した。グループホールへは品種開発、飼料の生産、自社農場での生産、と畜、加工、副産物や内臓肉の販売、生ハムの製造・販売、輸送など、豚肉生産プロセスの全段階をカバー。豚肉生産量・輸出量でスペインのトップ



プに立っており、世界100カ国以上の輸出実績を持つなど大きな事業規模を誇り、豚肉事業がグループ売り上げの約95%を占める。

一方で、豚肉以外にもエネルギー部門や農業部門も展開している。世界で唯一、自社グループ内でカーボンニュートラルを実現するなどのエネルギー部門の優れた体制をアピールしたほか、有機栽培や植林による環境保護への貢献、サステナビリティやアニマル

ウエルフェアに関わる取り組みも紹介した。

また、小野代表は「われわれの取り組みは、日本市場でも認知されるようになってきた。それらを続けながら、規格どおりに生産する、契約どおりに船積みするということは今後も継続してやらなければならない」と、今後の展望についてコメントしている。

パーティーの最後には、セルヒオCEOが「10周年を迎えられたことに感謝したい。グループホールへには6千人の社員がおり、全員で日本の皆さんをサポートしていく」と述べた。



## 【東京食肉卸売市場】牛はもちあい、豚は底堅い

[牛]前週は和牛、交雑牛ともにもちあい。全共明けということもあり週頭に下げたが、ほぼ10月中旬並みの相場展開。月末で出荷頭数は少なく、和牛は週中にやや戻した。縮まっていた3～4等級の価格差はやや落ち着いた。交雑牛去勢の3等級は弱もちあいで推移したが、後半に戻した。

末端の需要は決して良好ではないが、選挙が終わり抑えていた仕入れも動き出すだろう。和牛のロースは引き続き重いが、気温も肌寒い日が続いていることから、スライス材、煮込み商材の引き合いも出てきている。天候もよく、店舗によっては焼き材も好調、重かったバラもやや値を上げている。

今週は3連休明けとなり、上場も400頭を予定している。5等級上物は引き合いを保つだろうが、3～4等級はやや伸び悩むか。和牛去勢A5は2400～2500円、A4は2100～2200円、A3は1950

～2100円、交雑牛去勢B4は1600～1700円、B3が1500～1600円、B2が1400～1500円と予想する。

[豚]ここへきて関東でも一気に気温が下がってきた。暑さの影響から葉物野菜の価格も高く、不振だった鍋物需要などもようやく本格化してきた。

一方、徐々に出荷頭数は増加基調にあるものの、枝肉相場は比較的しっかりした相場が続いており、上物価格600円を上回る価格を付けている。

例年、年末を前にした不需要期であるこの時期は、出荷頭数が年間で最も増えてくる時期でもあり、荷動きには一服感がみられるが、今年は相場がなかなか緩まず、11月を迎えても上物価格600円絡みで推移している。為替が再び円安傾向にあるため、輸入ポークからのシフトもあり、底堅い荷動きが続くか。

## 【大阪市食肉卸売市場】牛はもちあい推移、豚下旬へ向けて下落か

[牛]10月の枝肉相場自体はやや上向いたものの、卸売業者によると末端の販売動向自体はあまり良くなっておらず、引き続き量販店の低価格志向、飲食店の客足低迷などを受けて、引き合い回復には至っていない。

こうした状況から、枝肉の買い自体は入っているものの、目立った流通の動きがないことから部分肉在庫がたまっていつている。このため、価格の伸びは今週も

限定的なものにとどまりそう。11月に入ったが、上場頭数はそれほど多くない。今週はまだ動きがなく、もちあいとみる。

[豚]価格が500円台に落ち着き、部分肉価格もようやく下落し始めた。11月は上場頭数も増加に向かうことから、以前よりも買いやすい価格帯で推移するだろう。下旬にかけてじわじわと下落するとみる。今週は弱もちあい。

# 大阪・東京枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月1日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,084	2,270	1,929	-	-
		安値	2,070	2,034	1,850	-	-
		平均	2,428	2,196	1,897	-	-
	53頭	頭数	33	18	2	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,078	2,709	2,176	-	-
		安値	2,111	2,106	1,858	-	-
		平均	2,517	2,255	2,102	1,729	-
	208頭	頭数	143	52	12	1	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,212	-	1,665	-	
2頭	頭数	-	1	-	1	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,794	1,741	1,551	1,437	-
		頭数	1	6	5	5	-
	雌 C	平均	-	-	-	1,420	-
		頭数	-	-	-	1	-
	去 B	平均	-	1,737	1,595	1,500	-
		頭数	-	5	11	13	-
去 C	平均	-	-	1,486	1,412	-	
2頭	頭数	-	-	1	1	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	351 398	788 954	- 168.5	(競り)	(相対)	
				-	17	78

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和雌 A	高値	2,535	1,698	1,426	1,146	-
	安値	-	-	1,231	1,059	1,004
和去 A	高値	2,473	2,112	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
乳雌 B	平均	-	-	-	909	883
	平均	-	-	-	862	819
乳去 B	平均	-	-	-	-	1,086
	平均	-	-	-	-	1,116
交雌 B	平均	-	1,711	1,634	1,568	-
	平均	-	-	-	-	-
交去 B	頭数	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	704	801	691	630	575
	安値	617	594	572	464	370
	平均	645	623	609	578	505
	頭数	( 9)	(288)	(320)	(178)	(159)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
相対	高値	-	661	-	-	527
	安値	-	661	-	-	432
	平均	-	661	-	-	505
	頭数	( -)	( 6)	( -)	( -)	(11)

[大阪食肉卸売市場] 11月1日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和雌 A	2,680	2,075	-	-	-
(頭数)	( 7)	( 4)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和去 A	2,462	2,035	1,929	-	-
(頭数)	(11)	( 4)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,789	1,556	1,406	-
C	-	-	1,548	1,434	-
交雑去 B	-	1,761	1,501	-	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	539	499	415	332

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	11月1日	10月31日	(11月累計)
豚	63,300	67,700	63,300
成牛計	4,490	3,900	4,490
和牛雌	1,300	870	1,300
和牛去勢	950	1,050	950
乳牛雌	760	830	760
乳牛去勢	330	450	330
交雑雌	570	410	570
交雑去	570	290	570

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月1日

東京	1,553円(前日 1,445円)
大阪	1,501円(前日 1,513円)

[豚・全農建値] 11月1日

上	中	取引頭数	市況
621円	604円	1,018頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 73頭 牛 55頭	豚 128頭 豚 172頭	牛概況 豚概況	もちあい 続落
----------	----------------	------------------	------------	------------

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月1日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	626 (626)	- (-)	5,605	-	もちあい
仙台 [中]	616 (606)	577 (557)	611	71	上伸
宇都宮 [地]	648 (648)	588 (607)	1,440	102	もちあい
茨城 [地]	620 (627)	592 (599)	1,479	671	下押し
群馬 [地]	632 (631)	551 (545)	2,138	510	堅調
さいたま [中]	612 (631)	600 (611)	194	192	反落
東京 [中]	623 (620)	609 (605)	788	954	強もちあい
横浜 [中]	630 (627)	604 (597)	635	635	もちあい
山梨 [地]	- (593)	- (585)	134	39	休市
浜松 [地]	607 (615)	554 (537)	338	40	下押し
名古屋 [中]	611 (596)	558 (562)	972	317	反発
京都 [中]	566 (598)	567 (577)	115	73	もちあい
大阪 [中]	539 (547)	499 (476)	128	99	続落
神戸 [中]	593 (573)	585 (557)	-	45	上伸
岡山 [地]	639 (668)	627 (679)	357	333	下押し
広島 [中]	588 (-)	544 (-)	189	74	反落
福岡 [中]	594 (594)	561 (561)	498	96	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 10月25日～10月31日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,942,457 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,145	1,189	1,300	1,213	88,942
うで	737	810	849	809	146,413
ロース	1,080	1,188	1,296	1,183	162,387
ばら	1,192	1,275	1,352	1,270	231,080
もも	756	804	862	802	208,752
ヒレ	1,134	1,188	1,269	1,194	21,724
セット	945	1,039	1,098	1,029	1,083,159

◇近畿圏 総重量 757,480 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,146	1,310	1,350	1,294	62,297
うで	733	757	810	772	121,735
ロース	1,080	1,247	1,282	1,213	91,553
ばら	1,252	1,281	1,328	1,281	127,620
もも	716	747	825	748	182,904
ヒレ	1,158	1,356	1,404	1,339	10,044
セット	899	1,015	1,089	1,001	161,327

[食鳥正肉日経相場] 10月31日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※木曜日は休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	623	669	792	147
ムネ	348	384	490	123

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	637	693	990	8
ムネ	353	411	550	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 10月31日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	927	601	550	600	650
安値	625	320	290	360	350
平均	672	386	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

# 日刊食肉速報

## 2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからも鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

### 紙媒体

A4版に  
サイズUP!



購読料は  
そのまま!



### WEB サービス版

手軽に情報チェック!  
バックナンバーも  
探しやすい!



\*写真はイメージです。

仕様 | 11ページ  
(表紙)カラー (中面)モノクロ

発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)

購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)  
6カ月 42,120円(税・送料込)

## 広告スポンサー募集

### 日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?

広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など  
スポット告知に最適

ターゲットを絞った  
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ  
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎ 03-3663-2011 ✉ mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社